

学校概要

創立	51周年	学校長	藤田 洋子	副校長	平岡 仁樹	学期	2 学期制	児童・生徒数	490人
学級数 一般級: 16 個別支援級: 2					主な関係校:				

学校教育目標

「素直に表現する子」「豊かにかかわりあう子」「互いに高めあう子」を育てます。
 ○自ら問題を追究し、考え、解決し、主体的に表現しようとする子を育てます。(知)
 ○自分を見つめ、他者を認め、自分もみんなも大切にすることを育てます。(徳)
 ○心と体を鍛え、粘り強く、バランスよく、元気で素直な子を育てます。(体)
 ○地域の人やものとのかかわり合いを大切に、社会と共に生きる子を育てます。(公)
 ○社会の変化に柔軟に対応し、広い視野で自分の夢や目標をもてる子を育てます。(開)

学校の特徴

- 閑静な住宅街の広がる丘の上に立ち、落ち着いた環境にある。校庭の一部が芝生におおわれ、緑の多い学校である。
- 学校・地域コーディネーターを活用して学校と保護者・地域の連携が進められている。外部人材を教育活動に活用している。
- 児童らは日々落ち着いて学習し、学力は高く、家庭の教育熱も高い。
- 職員間は仲が良く、支え合いや学び合いが行われている。
- 学力の高い児童が多い中に、学習支援を要する児童もいるため、授業の進め方が難しい。
- 保護者の子どもに対する期待が大きいため、児童らはできることが多いわりに自尊感情が低い。

学校経営中期取組目標

教職員が一丸となって次のことに取り組み、魅力ある温かい学校づくりを目指します。
 ○教職員の研究・研修を充実させ、豊かな体験や、自ら問題意識をもって取り組む学習を展開し、問題解決する力、創造する力を育てます。
 ○児童支援体制を充実させ、一人ひとりの子どもの心身ともに健全な育成を図ります。
 ○保護者、地域関係者、外部協力者との連携を図り、安全防災も含め、協働的に子どもを育てることを大切にします。

小中一貫教育の取組

a5	ブロック	谷本中学校、藤が丘小学校、さつきが丘小学校、谷本小学校
9年間で育てる子ども像	笑顔であいさつ ～自分を認め、相手を認め～ ①人・もの・こととの関わりを通して、豊かなコミュニケーションをもつ子ども(言語活用能力) ②人と豊かに関わり、自他を認め合いながら、共に学ぶ子ども(認め合う力)	
自校の具体的取組	○中学校ブロック合同授業研の充実のために、自校が授業提案するときは、小中で研究しやすい単元を選び、活発な事後研究会にするようにする。 ○領域研究会を通して情報共有と連携強化を効果的に行うために、事前の検討会を丁寧に行う。 ○児童生徒交流日には、中学校の授業を実際に体験して、中学校進学への意欲をもてるようにする。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用する力(思考力・判断力・表現力)、及び問題解決する力、話し合う力の育成を目指す。	①豊かな体験や他者とのかかわり、コミュニケーションを大切に学習を進めていく。②言語活動を多く取り入れ、自分の考えを表現する力をつけ、友達と話し合いながら学びを深めていくようにする。③毎日家庭学習を行う習慣をつくるようにする。④時間を有効に使い、学習の基礎基本の定着を図る。
豊かな心	一人ひとりの子どもが、自他の生命を尊ぶとともに、しっかりと自尊感情をもち、思いやりの心をもって他者と関わり、よい仲間づくりをする心を育てる。	①道徳教育を充実させ、規範意識を高め、よりよく生きようとする心を育てる。②縦割り活動を充実させ、集会や休み時間等で交流を深めていくようにする。③日々の授業の中で、自尊感情を育てる。④音楽などの情操教育や自然とのふれあいを通して、感性豊かな心を育てる。⑤地域の一員であることを自覚し、地域とのかかわりを大切にしようとする態度を育てる。
健やかな体	心と体の成長を自覚しながら望ましい生活習慣を身につけ、健康で安全な生活を送れるようにするとともに、運動に親しむことを通し体力向上を目指す。	①食教育を豊かに展開し、食と健康についての知識理解、生活態度の向上を図る。②養護教諭と連携しながら、保健指導や児童保健委員会の活動を充実させる。③一校一実践運動で、横浜市体育協会と連携してジュニアスポーツを実施し、運動を楽しみながら体力づくりをするようにする。
児童指導	児童支援体制を充実させ、一人ひとりの特性にあった支援をするとともに、子どもたちが規範意識をもち、学校や地域で規律正しい行動ができるように努める。	①児童指導専任を中心とした児童指導や、特別支援教育の体制を整え、医療・他機関とも連携し、問題解決に向けたチームでの取組を充実させる。②職員会議の中で、配慮を要する児童の対応の共通理解を定例として行う。③「つつじスタンダード」を活用して、学校における規範意識の向上を図る。④交通安全や社会のルール等について、様々な場面を通して態度の育成を図る。
保護者・地域連携	学校・地域コーディネーターとの連携による、地域などの外部人材を積極的に活用した教育活動を構築する。	①学校・地域コーディネーターとの連携により、地域情報センターをより充実させ、サポーター・外部人材の活用や教育環境整備を進める。②地域交流イベントを地域と共催で行い、子どもたちが他世代との交流を通じ、地域への愛着を深めるようにする。③地域清掃や地域防災訓練等に対して、学校ができることを積極的に行っていく。
教職員の研究・研修	計画的な研修・研究により、教職員の力の向上を目指す。	①教職員の協働的な教材研究、授業研究を充実させ、意欲的に授業改善に取り組む。②様々な分野の研修を夏休みを中心に、年間を通して計画的に行い、教職員の質の向上に努める。③研究・研修が充実できるよう、校務の整理・効率化を進める。
いじめへの対応	いじめを絶対に許さないという意識を全職員で共有し、いじめの防止・早期発見に努める。	①いじめの早期発見のために、「先生あのおタイム」やアンケート等を効果的に活用する。②「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、子どもの実態を把握するとともに、授業づくりや集団づくりを進める。③定期的にケースカンファレンスを実施し、実態把握及び分析を行うとともに、校長をリーダーに、児童支援専任や担任からなるチームによる支援を進める。
人材育成・組織運営	組織的・計画的な研究・研修を通して、教職員として必要な資質・能力の向上を目指す。チームでの取組を大切に組織運営する。	①経験の浅い教職員は、メンターチームを中心に自主的な研修・研究を計画し、校内の先輩職員を講師にしたり、授業提案したりして能力の向上を目指す。②主幹教諭の職務内容を明確にしながら、主幹教諭を柱にした組織運営を行い、コミュニケーションを通して円滑に動くようにする。③週1回の教務会で、学校全体を見通した学校運営を進めるようにする。